

鎌倉市由比ヶ浜南遺跡と中世人

2026年9月8日(火)～11月29日(日)

－ はじめに －

神奈川県鎌倉市にある由比ヶ浜南遺跡は、鎌倉市由比ヶ浜海浜公園の地下駐車場建設に伴って1995年（平成7年）から2000年（平成12年）にかけて発掘調査が行われ、3000体を超える大量の中世人骨が出土した遺跡です。

由比ヶ浜南遺跡は単体埋葬墓と複数体埋葬墓（集骨）からなる埋葬遺構を中心とした中世の遺跡で、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムは複数体埋葬墓の調査を担当しました。

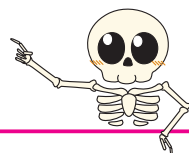
これほど大量の中世人骨が出土している遺跡は他にはありません。出土した人骨は老若男女さまざまな人が葬られており、当時の社会情勢や人々の形質的特徴を知ることができる貴重な資料です。

今回は整理作業が終わった由比ヶ浜南遺跡の人骨を中心に中世人の特徴を紹介する展示になります。

中世という時代は、印象が薄いと思う人も多いかもしれませんが、人骨の形質も時代背景もとても魅力のあるおもしろい時期ですので、展示をとおして中世という時代に興味をもってもらえればと思います。

ちゅうせい

－ 中世はどんな時代？ －



中世とは、源頼朝により鎌倉幕府が成立する1185年から室町幕府が滅亡し、徳川家康が江戸幕府を開いた1603年までの418年間のことを言い、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、戦国時代のおおむね12世紀末～17世紀初頭までを指します。

それまで貴族中心だった社会から軍事力をもつ武士が政治の実権を握り、全国各地で争いがおきた戦乱の時代でした。また、仏教が一般の人々にも広がるなど文化も大きく発展した時期でもありました。

ゆ い が は まみなみ

－ 由比ヶ浜南遺跡とは －

由比ヶ浜南遺跡は老若男女様々な人たちが埋葬されているので、形質（かお・かたち）だけではなく、病変や骨折、刀傷など当時（中世）の生活の様子を知ることができる貴重な遺跡です。



－ 単体埋葬と複数体埋葬 －

由比ヶ浜南遺跡では単体埋葬墓と複数体埋葬墓がみられます。単体埋葬墓は1体のみを埋葬した墓のことで、埋葬姿勢は仰臥屈葬（仰向けで腕や脚を曲げた状態）や側臥屈葬（横向きに寝かせて、腕や脚を曲げた状態）です。側臥屈葬は中世になってからみられるようになる葬法です。

複数体埋葬は、複数の遺体を一つの墓に埋葬する方法ですが、頭だけや体の一部がつながった状態のものもあるので、完全に骨になっていない状態のものが集められて埋葬されたと考えられます。

単体埋葬（側臥屈葬）



【129-B号墓】

複数体埋葬



【5318号墓】

－ 中世人の3つの特徴 －

（頭型）

1つめの特徴は頭の形に見られます。頭を上から見ると横幅に対して前後方向に長い形をしています。これを長頭型と言います。中世人の頭の形（頭型）は長頭型の人が多いです。

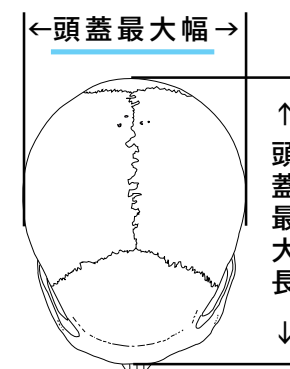
頭の形は頭型で表します
(頭型…頭を上から見た形)



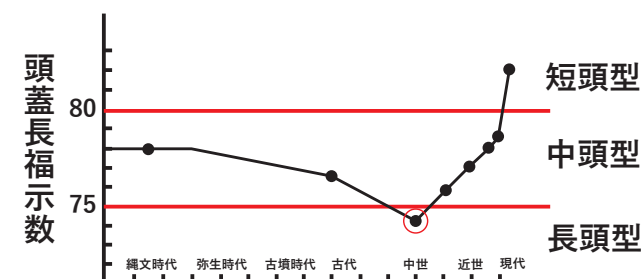
長頭型
(前後に長い)

中頭型

短頭型
(円に近い)



頭蓋長幅示数 = $\frac{\text{頭蓋長幅}}{\text{頭蓋最大長}} \times 100$



「骨の名前としくみ事典」画像

頭蓋長幅示数

70.0～74.9	長頭型
75.0～79.9	中頭型
80.0～84.9	短頭型
85.0～89.9	過短頭型
90.0～	超短頭型

びこんぶ (鼻根部)

2つめの特徴は、鼻の付け根に見られます。中世人の鼻は日本の歴史上で最も低くなります。このことを「鼻根部が扁平」と表現します。鼻の付け根を横からみるとほとんど隆起しておらず、額から鼻先までの角度が大きくなっています。

せいほくしゅうしゅうやよいじん
西北九州弥生人
【ホリが深い】

角度が小さい



角度が大きい

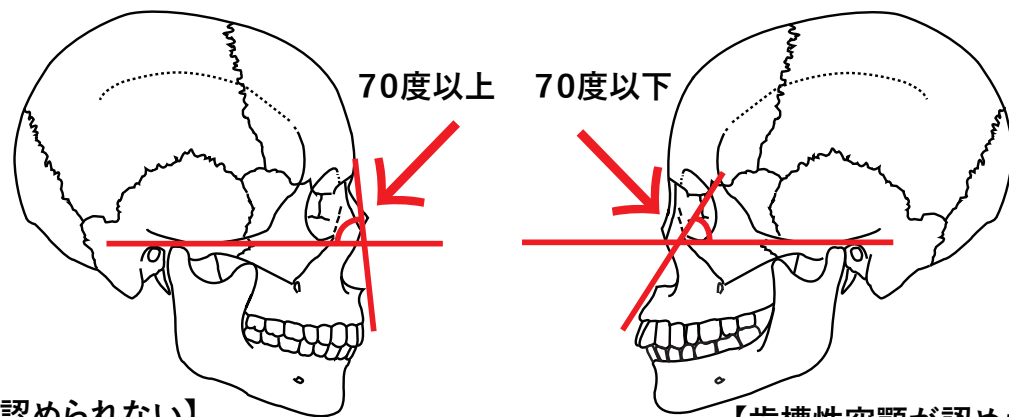


由比ヶ浜南遺跡中世人
【ホリが浅い】

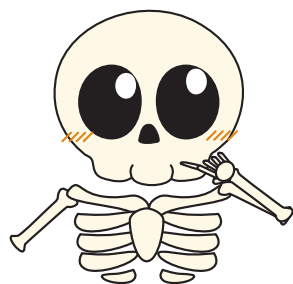
しそうせいとつがく (歯槽性突顎)

3つめの特徴は上顎骨に見られます。中世になると上顎骨が前方に突出するように傾きます。それに伴って上の前歯も前に突出し、「反っ歯」になります。この状態を歯槽性突顎と表現します。近年では歯槽性突顎を顔面性突顎であるとする研究もあります。

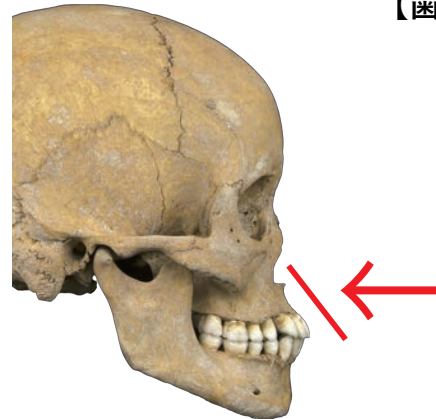
上顎の傾き方は歯槽側面角で表されます



【歯槽性突顎は認められない】



【歯槽性突顎が認められる…そっ歯】



前方に傾く

－ 由比ヶ浜南遺跡の人たちの『かお・かたち』 －

《頭型》

由比ヶ浜南遺跡の中世人の頭型は、基本的には成人の男性や女性、子どもも長頭型です。

9歳前後
【5318-295号人骨】



長頭型【74.14】

女性
【5318-17号人骨】



長頭型【74.27】

男性
【5318-90号人骨】



長頭型【71.73】

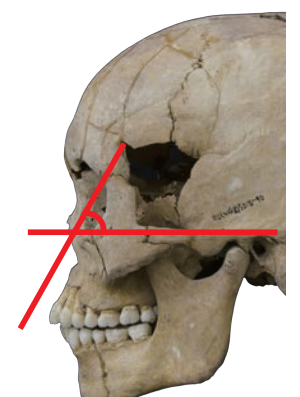
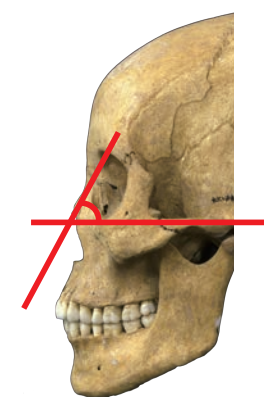
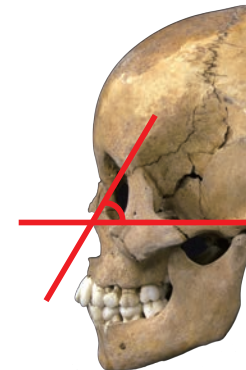
びこんぶ 《鼻根部》

男性や女性、子どもも基本的には鼻骨の隆起は弱くて鼻の付け根（鼻根部）も扁平です。



《歯槽性突顎》

歯槽性突顎も基本的には男性や女性、子どもも上顎骨が前に突出していて、歯槽性突顎の傾向が強く出ています。つまり、これらの形態的特徴は、多少の個人差はあるものの、大人から子どもまですべての年代でみられることから、由比ヶ浜南遺跡中世人の時代的特徴と言えます。



－ 骨にみられるさまざまな症状 －

由比ヶ浜南遺跡は3000体を超える人骨が出土しています。これだけ大量の人骨が出土しているので、骨にも色々な症状がみられます。今回はその中でも珍しい症例を紹介します。

また、由比ヶ浜南遺跡からは刀傷がみられる人骨も出土しています。骨に刀傷がみられる人骨は全国的にみても決して多くはないので、紹介します。

由比ヶ浜南遺跡の中世人骨の刀傷は全身の骨にみられ、性別や年齢に関係なくみられることから、戦によってなくなった人だけではなく、戦に巻き込まれて亡くなった人もいたことが考えられます。

－ 水平埋没犬歯 －

左側の上顎犬歯が水平になった状態で、萌えています。顎に歯が入る十分なスペースがなかったり、乳歯がいつまでも抜けなかったりすると、歯が正しい位置に萌出できないことがあります。珍しい症例です。

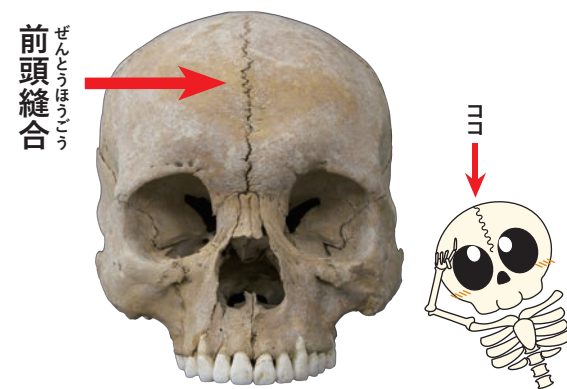


犬歯が横を向いている
第一小白歯が回転している

【5318-239号人骨、男性】

－ 前頭縫合 －

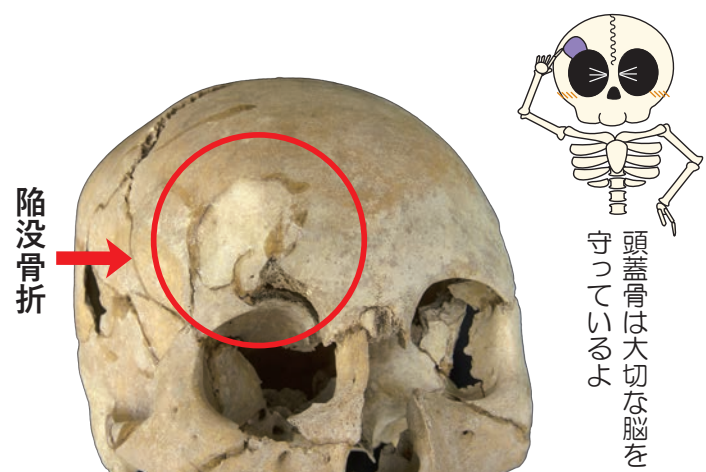
前頭骨は、生まれたときは左右に分離しており、前頭縫合でつながっています。1歳頃から左右の前頭縫合がくっつき始めて、2～3歳までには完全に癒合し消失します。前頭縫合は、成人の約10%には存在するといわれています。前頭縫合は病変ではなく正常な骨の個体変異です。



【5318-187号人骨、男性・壮年】

－ 陥没骨折 －

陥没骨折は頭に強い衝撃を受けて頭の骨が内側にへこむケガです。頭の骨が陥没すると脳を圧迫したり損傷したりして、感染症やめまい、痙攣や意識障害を引き起こしたりする、命に関わるととても危険なケガです。例えば堅い棒のようなもので殴られたりすると陥没骨折がおきます。



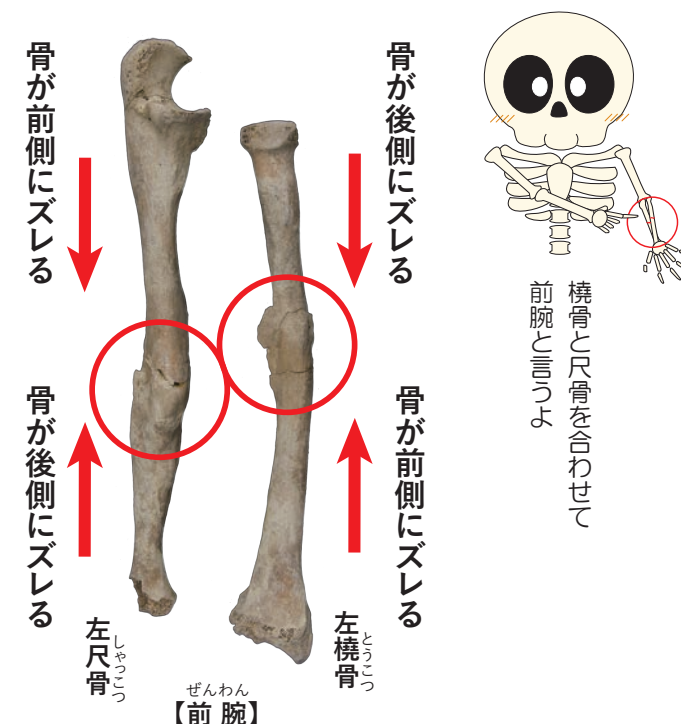
【5318-184号人骨・男性、19～20歳】

－ 変形治癒骨折 －

左側の橈骨と尺骨の中央部（骨幹部）を骨折して、骨がズレたままの状態（癒合）しています。

骨がズレたまま癒合したので、左側の前腕のほう（右側）よりも短くなっています。

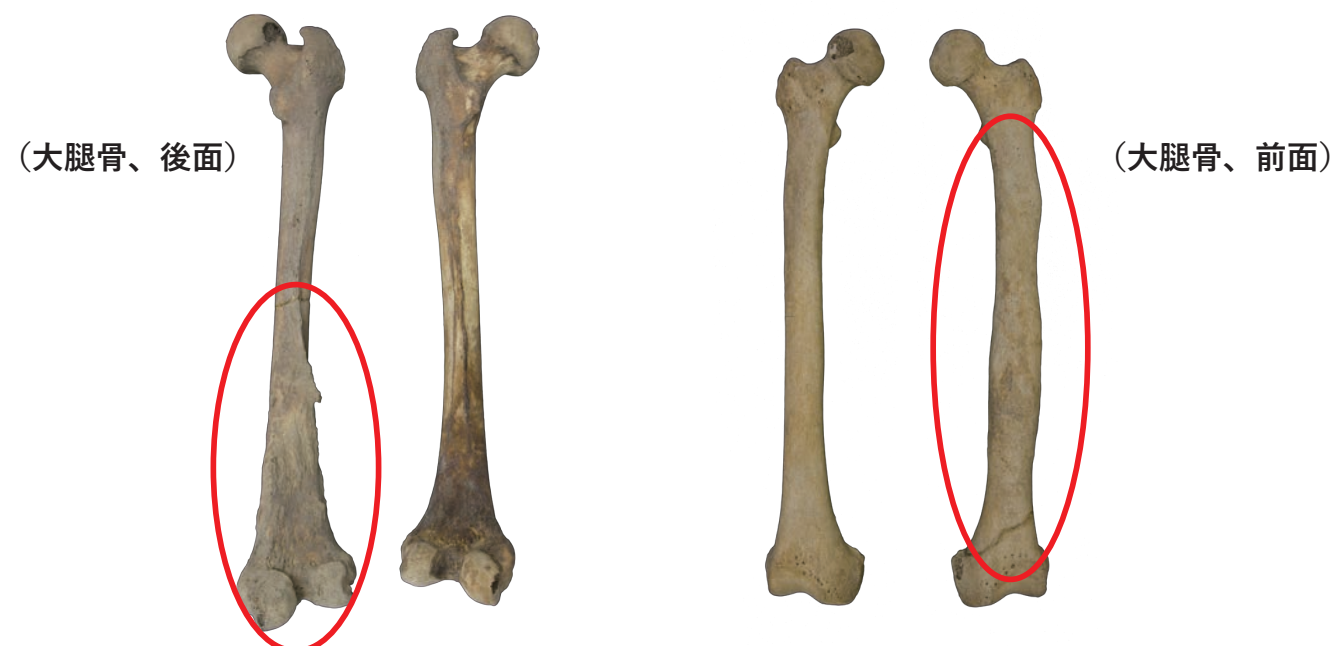
このような骨折は、転倒や転落、横からの強い衝撃でおこります。この前腕の骨のズレかたをみると高所からの転落のときに手をついたことによる骨折ではないかと考えられます。



【136D号人骨・男性】

－ 骨膜炎による骨増殖 －

骨膜は骨を包む膜です。ここが感染症や強い刺激、骨折などのストレスを受けると、新しい骨が作られて、骨の表面が盛り上がり、骨が棘状に増殖したりします。このような症状を骨膜炎といいます。



【129G号人骨・男性】

【24号人骨・男性】

にほんとう かたなきず － 日本刀と刀傷 －

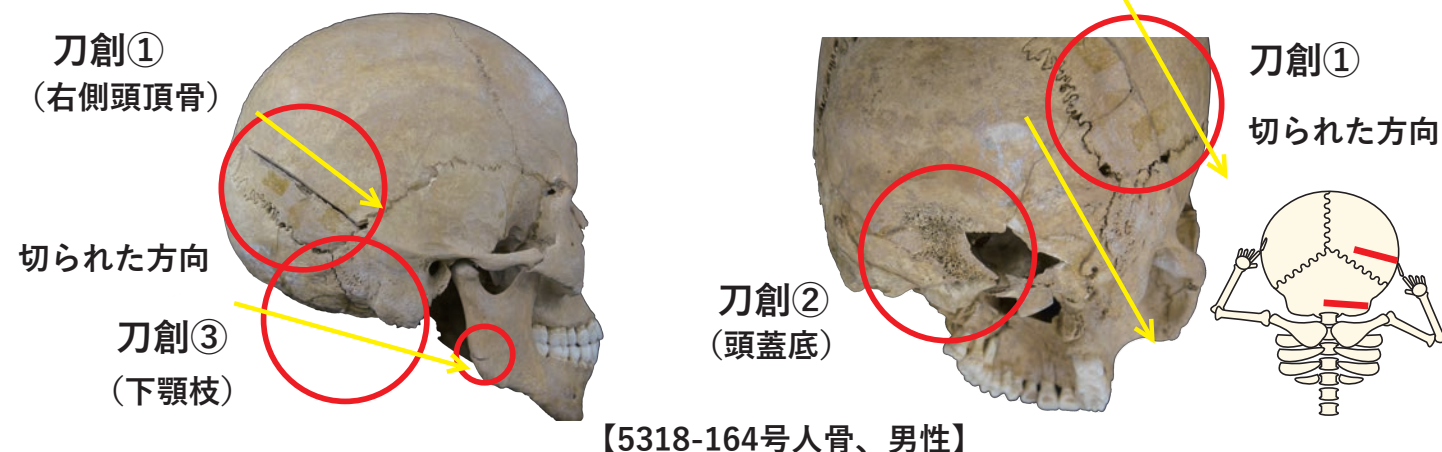
刀は、中国から伝わった反りのない直刀から始まりました。平安時代になると武士があらわれ、実用性が高い、反りのある湾刀（太刀）が誕生します。鎌倉時代になり武士が政権を握り争いが増えると、より丈夫で切れ味が優れた刀が作られるようになりました。この時代に作られた刀は鎌倉刀とも呼ばれています。



【158-285号人骨、男性】

にほんとう するど － 日本刀の鋭さ －

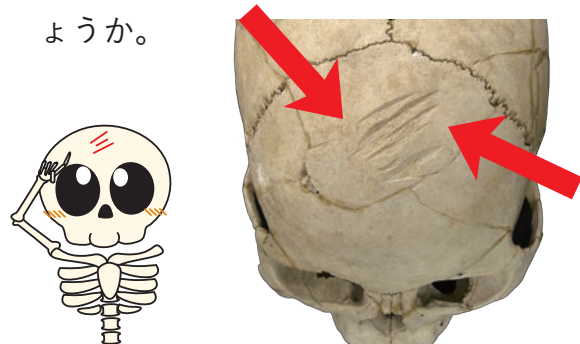
164号人骨には、右側頭頂骨の後方（刀創①）、頭蓋底（刀創②）、下顎枝（刀創③）の3ヵ所に刀傷があります。刀創①は骨壁を完全に貫通しており、日本刀がいかに鋭いかがわかります。刀創②と③は、後方から切られ、下顎骨で刃が止まったことがわかる傷です。



【5318-164号人骨、男性】

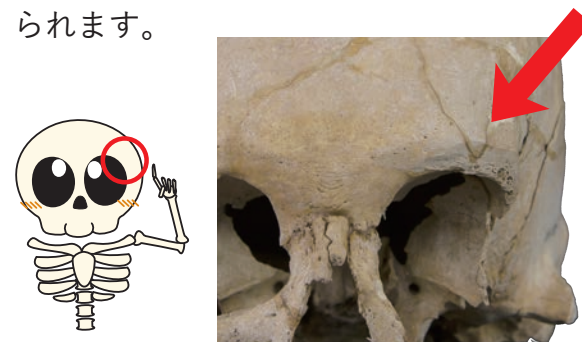
とうそう ぜんとうこつ － 刀創 － 《前頭骨》

前頭骨の中央部に同じ場所を何度も切られた痕があります。なぜ何度も同じところを切られたのでしょうか。



【204-B-265号人骨】
男性・壮年

左側の眼窩（目が入る穴）の左上の縁に刀で切られた痕があります。このヒトは女性ですが、男女関係なく刀傷などがみられます。



【204-B-451号人骨】
女性・壮年

こうとうこつ 《後頭骨》

刀傷がみられる人骨のなかには子どもの骨も含まれています。この2体はともに15歳前後の男性です。大人だけではなく子どもたちも争いの犠牲になった、厳しい戦乱の時代であったことを想像させる資料です。



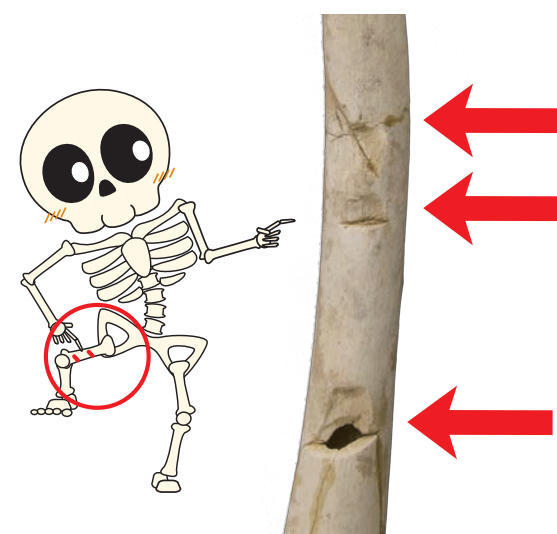
【123-S-88号人骨・15歳前後】



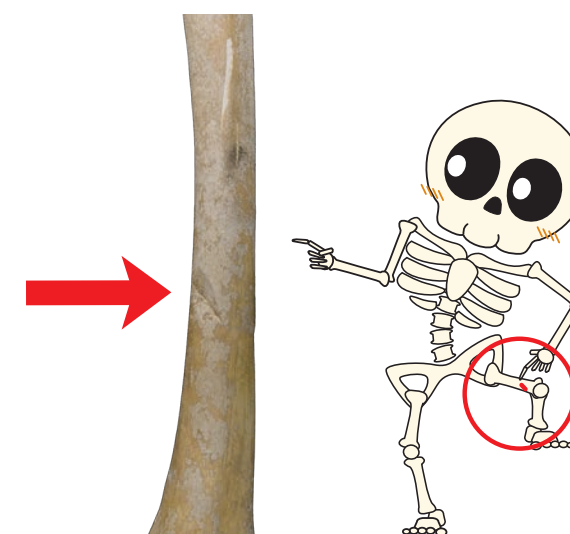
【123-S-120号人骨・15歳前後】

だいたいこつ 《大腿骨》

頭蓋だけではなく大腿骨にも刀傷がみられます。大腿部には体の中で1番大きくて厚い筋肉がありますが、その筋肉を切断して骨にまで達しています。刀傷は鎖骨、寛骨（腰の骨）など、全身の骨にもみられます。



【158-266号人骨、男性】



【158-474号人骨、男性】

－ 下関の中世人骨 －

下関市では土井ヶ浜遺跡や吉母浜遺跡、中ノ浜遺跡から比較的保存状態が良好な中世人骨がみつかっています。

土井ヶ浜遺跡からは3体の中世人骨が出土しています。吉母浜遺跡からは保存状態が良い中世人骨が100体以上も出土しています。中ノ浜遺跡からは9体の中世人骨が出土していますが、保存状態は悪いものでした。

また、土井ヶ浜遺跡の近くにある寺ヶ浴遺跡からは身長が169.67cmもある高身長の男性人骨が出土しました。



－ 土井ヶ浜遺跡の中世人 －

土井ヶ浜遺跡からは弥生人骨だけではなく中世人骨も出土しています。

土井ヶ浜遺跡の中世人も由比ヶ浜南遺跡の人たちと同じように頭型は長頭型で、鼻の付け根は扁平で、歯槽性突顎がみられます。



【1402号人骨、女性・壮年】



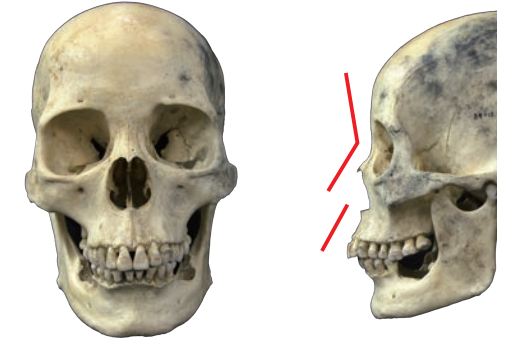
【1603号人骨、女性・16歳】

－ 吉母浜遺跡の中世人 －

吉母浜の中世人も、頭型は長頭型で、鼻の付け根は扁平で、歯槽性突顎という特徴がみられます。下関市の中世人も由比ヶ浜南遺跡の中世人と同じ形質的特徴がみられます。この形質は時代的な特徴（時代差）です。



【010号人骨、女性・壮年】



【仮013号人骨、女性・壮年】

－ 中世人の身長 －

推定身長は大腿骨や上腕骨、脛骨の最大長から推定します。由比ヶ浜南遺跡の男性の平均身長は159.64cm、吉母遺跡は159.70cmで、由比ヶ浜南遺跡と吉母浜遺跡の身長はほぼ同じです。由比ヶ浜南遺跡の女性の身長は147.53cm、土井ヶ浜遺跡は153.19cm、吉母浜遺跡は148.31cmで、土井ヶ浜遺跡の女性はやや高身長です。

なお、寺ヶ浴遺跡の男性中世人は白磁腕と鉄刀を副葬されており、169.67cmの高身長でした。この男性は日宋貿易に関わった人物ではないかと考えられます。

－ おわりに －

由比ヶ浜南遺跡の埋葬遺構からは、3000体を超える人骨が出土しました。その人骨は、多様な階層に属する人や、様々な職種の人、幼児から高齢者までの各年齢層の人など多岐に亘る中世人の遺骨ですので、この人骨から、中世に生きていた人びとに関する様々な人類学的情報を得ることができると期待されています。人骨の数量が膨大なので、現在も人骨の整理作業や研究を継続しています。整理が終わったものから順次報告書を作成し、当館の研究紀要に掲載しています。研究紀要はホームページで公表していますので、関心をお持ちの方は、ぜひご覧ください。